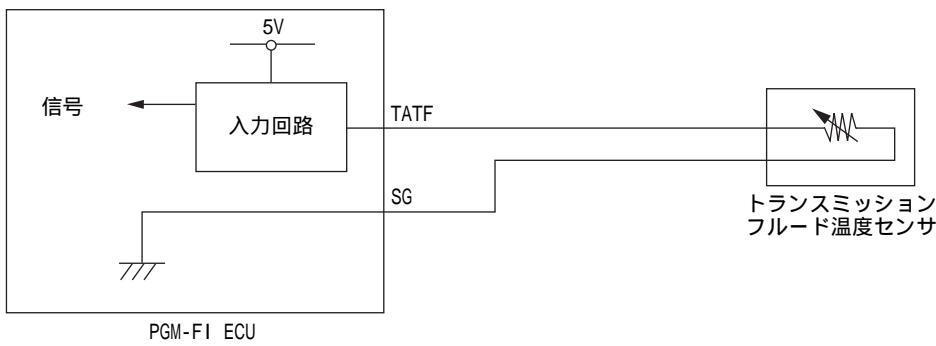


# DTC 解説

## DTC P0713: トランスミッション フルード温度センサ断線 (CVT システム )

### 検知原理解説



01\_P0711C\_SMGA00

トランスミッション フルード温度センサは、トランスミッション フルードの温度により抵抗が変化するサーミスタ式が用いられている。  
PGM-FI ECU はプルアップ レジスタを通して、5V の電圧を温度センサに供給する。  
トランスミッション フルードの温度が低い際は温度センサ抵抗が増加し、PGM-FI ECU は高い電圧を検出、トランスミッション フルードの温度が高い際は温度センサ抵抗が減少し、PGM-FI ECU は低い電圧を検出する。  
検出される電圧が規定値以上 (トランスミッション フルード温度が規定値以下) の状態で規定時間以上継続した場合、PGM-FI ECU は故障と判定し、DTC をストアする。

### 検知頻度・検知順序・検知所要時間・検知手法種別・ OBD ステータス

検知頻度	常時
( 当該 DTC の ) 検知順序	なし
検知所要時間	10 秒間以上
検知手法種別	2D/C(2 連続検知手法 )、PGM-FI 警告灯： 消灯、D 表示灯： 点滅
OBD ステータス	正常判定、故障判定、未完了

D/C: Drive Cycle( ドライブ サイクル )

### 検知実行条件

条件項目	下限	上限
バッテリー電圧 [ バッテリー電圧 ]	11V	
当該 DTC の検知禁止要求を行う DTC	P0712、P16C0	

[ ]: HDS パラメータ

### 故障判定基準

トランスミッション フルード温度センサ出力電圧 [HMMF 温度センサ (V)] が 4.93V 超過の状態で 10 秒間以上継続した場合。

### 推定故障部位

- ・ PGM-FI ECU とトランスミッション フルード温度センサ間コード (TATF ライン) の断線 ( カプラ外れ、もしくは緩みを含む )
- ・ PGM-FI ECU とトランスミッション フルード温度センサ間コード (SG ライン) の断線 ( カプラ外れ、もしくは緩みを含む )
- ・ トランスミッション フルード温度センサの故障
- ・ PGM-FI ECU 内部回路の故障

# DTC 解説

---

## 再現テスト手法

### HDS を使用する方法

なし。

### 実際の代表的テスト走行による方法

1. エンジンを始動する。
2. セレクト レバーを P ポジションにして 10 秒間以上待機する。

## DTC のストアとクリア

### DTC のストア

車両が故障と判定した場合、PGM-FI ECU メモリにテンポラリ DTC がストアされる。次回の D/C において同一の故障が検知 (2 連続検知) されると PGM-FI 警告灯が点灯することなく、D 表示灯が点滅し、DTC およびフリーズ データがストアされる。

### DTC のクリア

スキャン ツール (HDS を含む) のクリア コマンドの使用、もしくはバッテリー端子の取外しにより D 表示灯、テンポラリ DTC、DTC およびフリーズ データがクリアされる。